慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	加瀬古墳餘聞及秋草文壺の出土地
Sub Title	
Author	清水, 潤三(Shimizu, Junzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1953
Jtitle	史学 Vol.27, No.1 (1953. 12) ,p.69- 69
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19531200-0069

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

四庫全書總目（卷一六八）「友石山人遺稾」の條には、この書の著者「王翰」（その先は西夏の人）は陳友定から「潮州路總管を授けられ兼ねて循・梅・惠三州を督した」とある。これは友定の支配が潮州まで及んだ一證と思われる。また、福建行省平章政事に任ぜられたことは元史本紀（卷四七）に見える。

（七〇）明史（卷一二四）陳友定傳。

（七一）元史本紀（卷四五）に至正十七年七月己丑にかけ「鎮守黃河義兵萬戶田豊叛し、濟寧路を陷る。……義兵萬戶孟本周これを攻む。田豊敗走し、本周還りて濟寧を守る」とあり、また同十八年辛巳には「義兵萬戶王信、滕州を以て叛し、毛貴に降る」とある。皆義兵萬戶なるものの叛亂を起した實例である。

加瀨古墳餘聞及秋草文壺の出土地

滿十六年ぶりで加瀨古墳の發掘報告書刊行を目前にした去九月二日松本信廣教授と現地を視察したが、二つの古墳否加瀨山自體が殆んど姿を消しているのに一驚した。調査の際お世話になった青山勘五郎氏の健在は喜ばしく、我々の調査以前に鐵道工事の爲白山古墳の北東にあつた俗稱辨天塚が破壞され、石室（石棺？）内から遺物を出した由を語られた。また白山古墳の地主仁藤氏當主の話では白山古墳が破壞された際、前方部の南側から地下壙が數個列をなして發見されたらしい。當日青山氏所藏の土地測量圖を檢し得たが、その結果報告書の三一頁に古墳の所在地を「南加瀨大字越路四八番」と記したが、これは第六天古墳の所在地で、白山古墳は「同四九、五〇番地」に亘つて存在したことが確認された。

なお地圖を精査して北加瀨と南加瀨の境界が加瀨山の北端近くを通つていることを知つた。それ故思わぬ混亂を生じたので、報告書四頁に「北加瀨字越路」と誤り、「史學」第二三卷第三號の口繪解説にも秋草文壺出土地を「北加瀨」と誤記するに至つたのであつた。この機會に訂正する次第である。

（清水潤三）